

保険薬局におけるヒヤリハット事例の調査・解析と改善策に関する検討

P2-23

○河口 敏浩¹, 福江 知香², 河口 仁美¹, 東 豊¹, 松尾 浩民²

¹有限会社相思樹 ハートライフ薬局, ²就実大学 薬学部

目的

重大な副作用を未然に防止し、患者に対して安全な薬物療法を提供するために、保険薬局におけるヒヤリハット事例を収集・分析することは薬剤師にとって重要な業務の一つである。調剤薬局におけるヒヤリハットの定義が明確ではないため、本解析では「患者の手に渡る前に気づくことができた事例」をヒヤリハットと定義し、調剤過誤を含めたヒヤリハット事例について調査・分析を行った。併せて、結果を前年（2015年）と比較するとともに課題および対応策について検討を行った。

方法

調査期間は2016年1月から2016年12月までの1年間とし、当社全3店舗で応需した全処方箋を対象として行った。ヒヤリハット事例は、管理に関する帳簿に記載されたデータを基に収集を行った。事例の内容はカテゴリ別に分類し、集計を行った。

薬局の背景

ハートライフ薬局は、岡山市内に3店舗（北区2店舗：京町店、西大寺町店・南区1店舗：浦安店）を展開しており、3店舗のいずれもが内科（消化器科、呼吸器科、血液内科）開業医と連携している。各薬局の現状は以下の通りである。

- ・浦安店：岡山市南区。開局19年。処方せん枚数は約13100枚/年。処方せん受付総医療機関数は約80医療機関/年。
- ・京町店：岡山市北区。開局16年。処方せん枚数は約9700枚/年。処方せん受付総医療機関数は約60医療機関/年。
- ・西大寺町店：岡山市北区。開局5年。処方せん枚数は約8000枚/年。処方せん受付総医療機関数は約50医療機関/年。

3店舗とも門前医院との在宅連携に加え、周囲の医療機関とともに在宅医療に取り組んでいる。いずれの薬局も調剤時は薬剤師1名、医療事務2名の体制であり、総員として薬剤師2名、医療事務2名である。

結果

- ・調査期間中、全処方箋受付回数（30,864件）の1.5%にあたる426件のヒヤリハットおよび0.08%にあたる25件の調剤過誤の発生が確認された。
- ・各店舗のヒヤリハット発生件数は、浦安店：144件、京町店：143件、西大寺店：139件であった。一方、調剤過誤発生件数は、浦安店：18件、京町店：7件、西大寺店：0件であった。
- ・ヒヤリハット事例（ヒヤリハット + 調剤過誤：451件）の発生頻度は、処方入力時：207件（45.9%）> 調剤時：203件（45.0%）> 最終監査時：26件（5.8%）> その他：14件（3.1%）> 服薬指導時：1件（0.2%）の順であった。
- ・発生頻度が高い「処方入力時」および「調剤時」については小分類を行った。
- ・処方入力時（207件）の小分類については、いずれの項目も同程度の発生件数を示した。
- ・調剤時（203件）の小分類においては、38%に相当する77件の「i：数量」に関する事例が最大の発生件数を示し、以下、薬剤（38件）> 規格（37件）> 一包化（26件）> 調剤漏れ（20件）> その他（5件）であった。
- ・ヒヤリハット事例の発生件数を2016年と2015年で比較した結果、「B：調剤時」における発生件数が2015年：426件から2016年：203件へと減少が認められた。
- ・調剤時の小分類において、特に「数量」に関する事例が221件（2015年）から77件（2016年）へと顕著な減少が認められた。

- #### ヒヤリハットの大分類
- A：処方入力時
 - B：調剤時
 - C：最終監査時
 - D：服薬指導時
 - E：その他

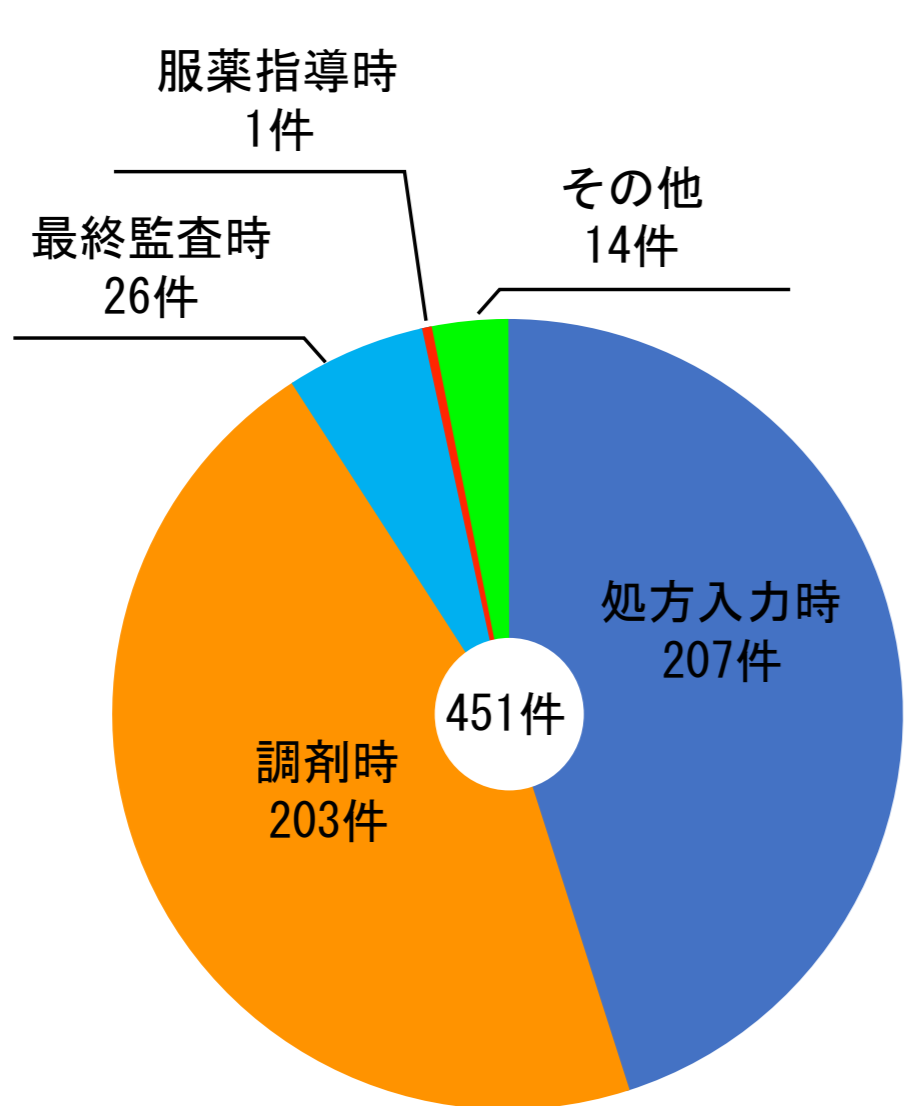
- #### A：処方入力時の小分類
- I：日数
 - II：数量
 - III：規格
 - IV：薬剤選択
 - V：用法
 - VI：保険
 - VII：漏れ
 - VIII：その他
- #### B：調剤時の小分類
- i：数量
 - ii：薬剤
 - iii：規格
 - iv：調剤漏れ
 - v：一包化
 - vi：その他

2016年 店舗別ヒヤリハット・調剤過誤発生率

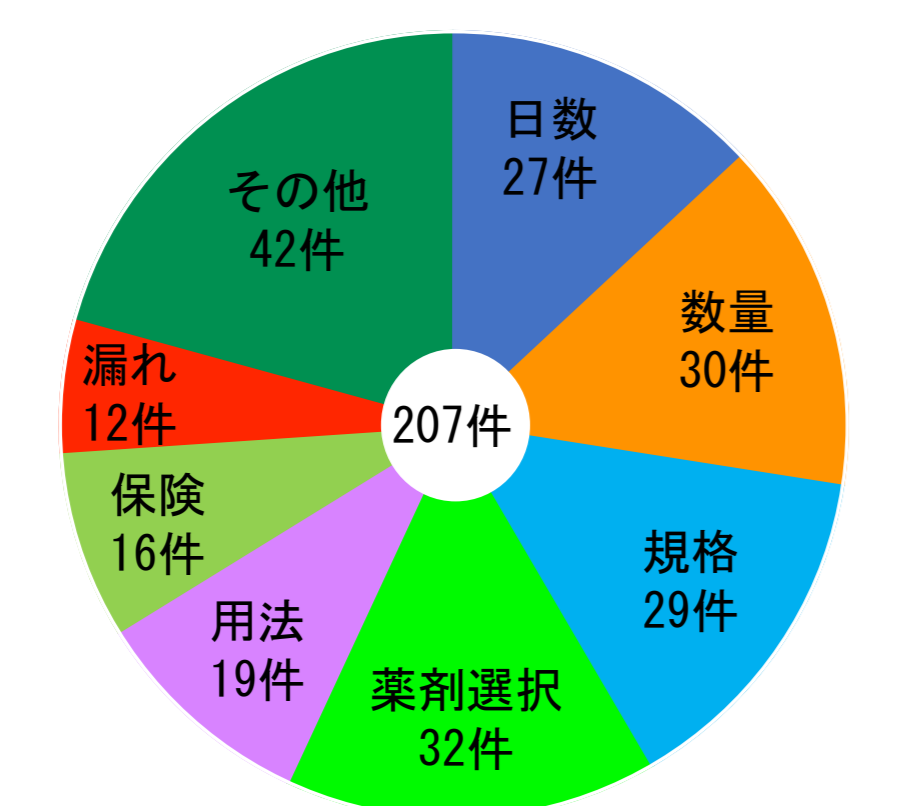
	浦安店	京町店	西大寺町店	合計
処方箋枚数	13105	9688	8071	30864
ヒヤリハット発生件数	144	143	139	426
ヒヤリハット発生率	1.10	1.48	1.72	1.38
調剤過誤発生件数	18	7	0	25
調剤過誤発生率	0.14	0.07	0	0.08

2016年 ヒヤリハット事例（全店舗）の分類

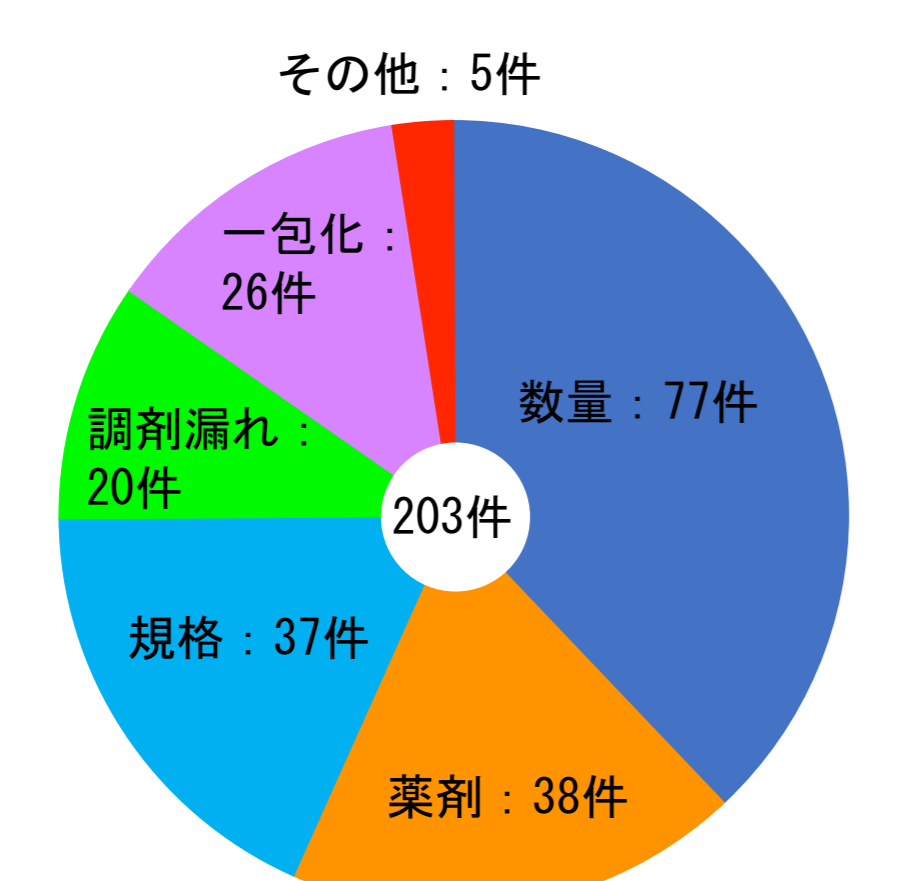
<大分類>



<処方入力時>

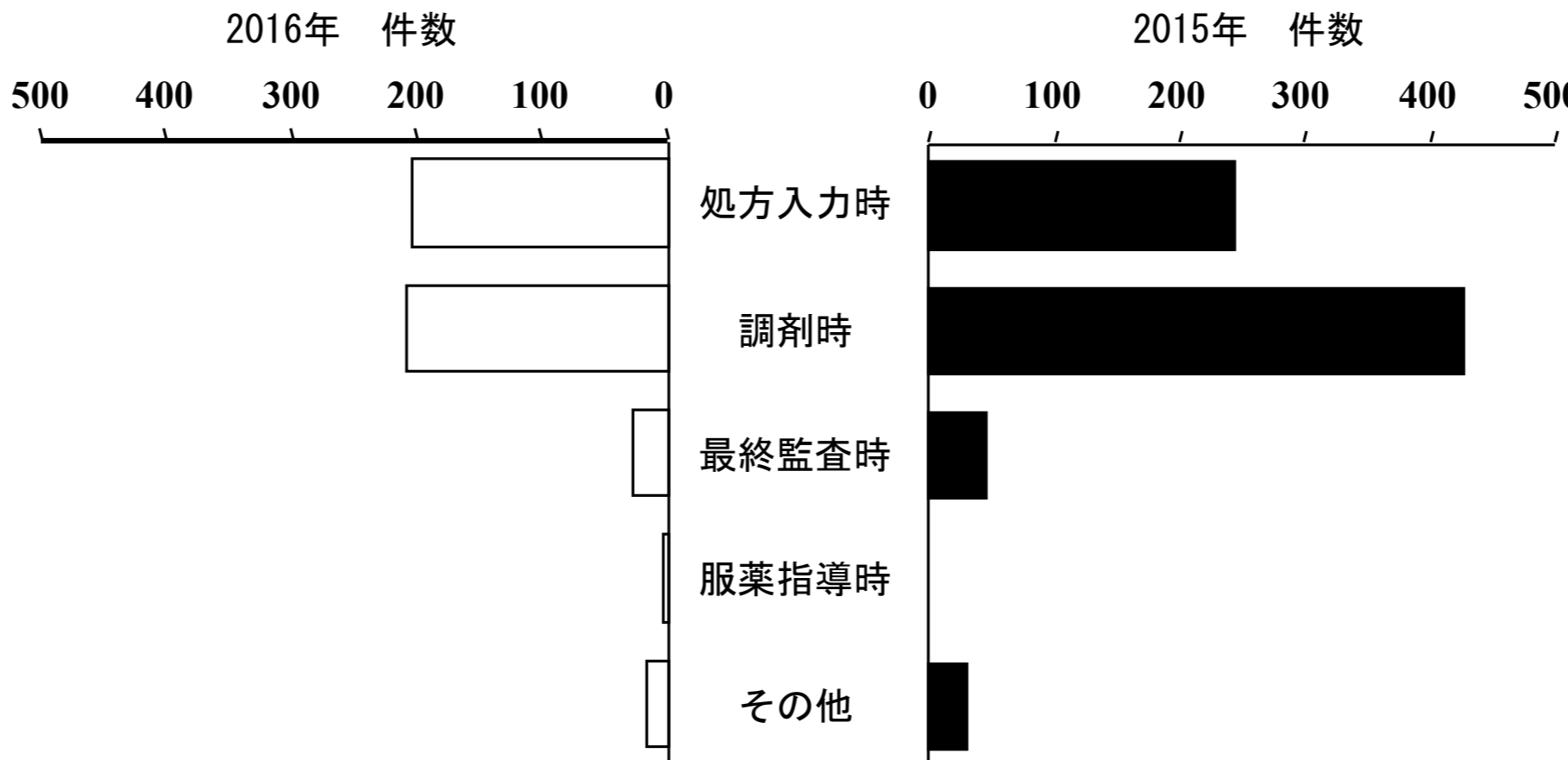


<調剤時>

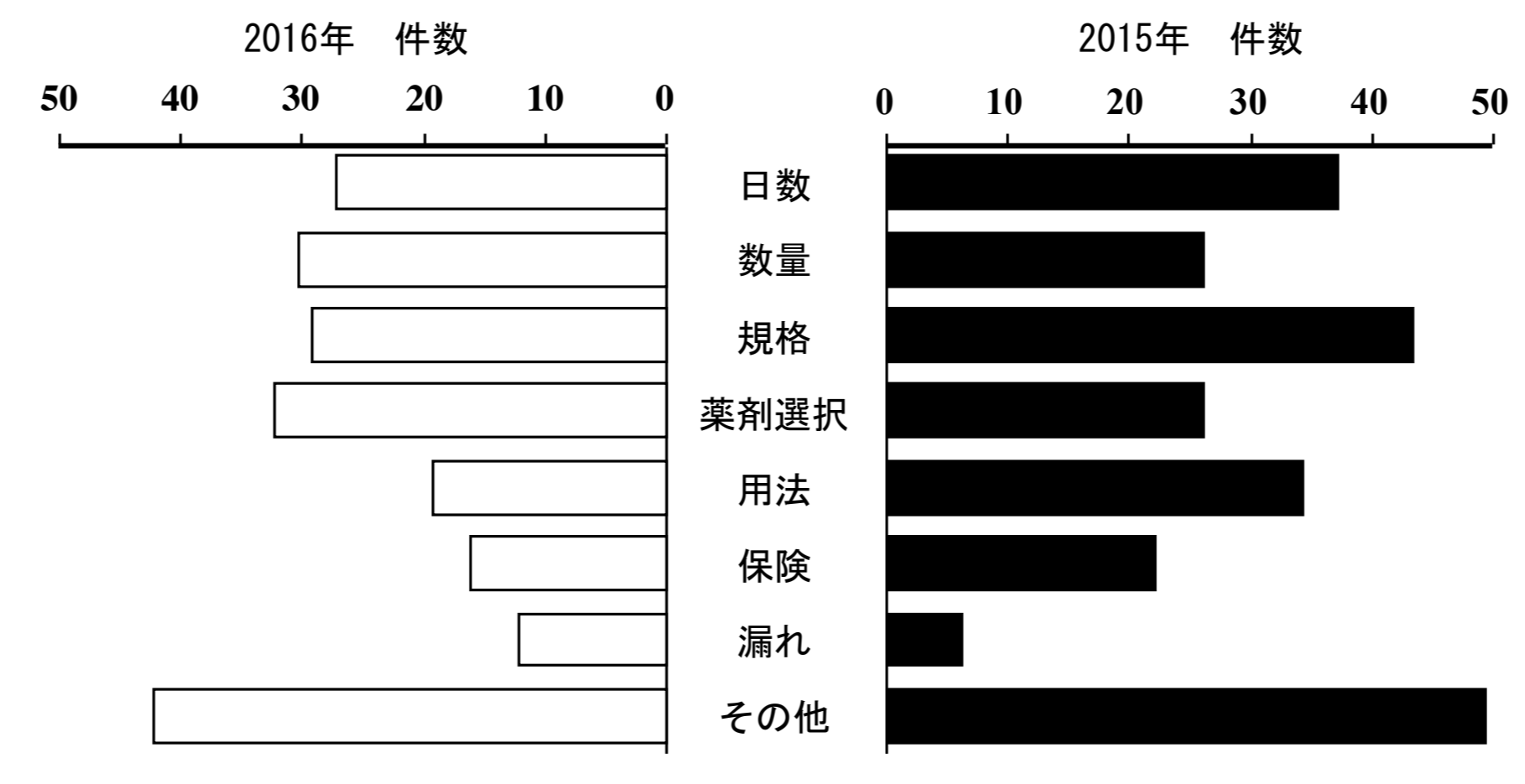


2016年と2015年の比較

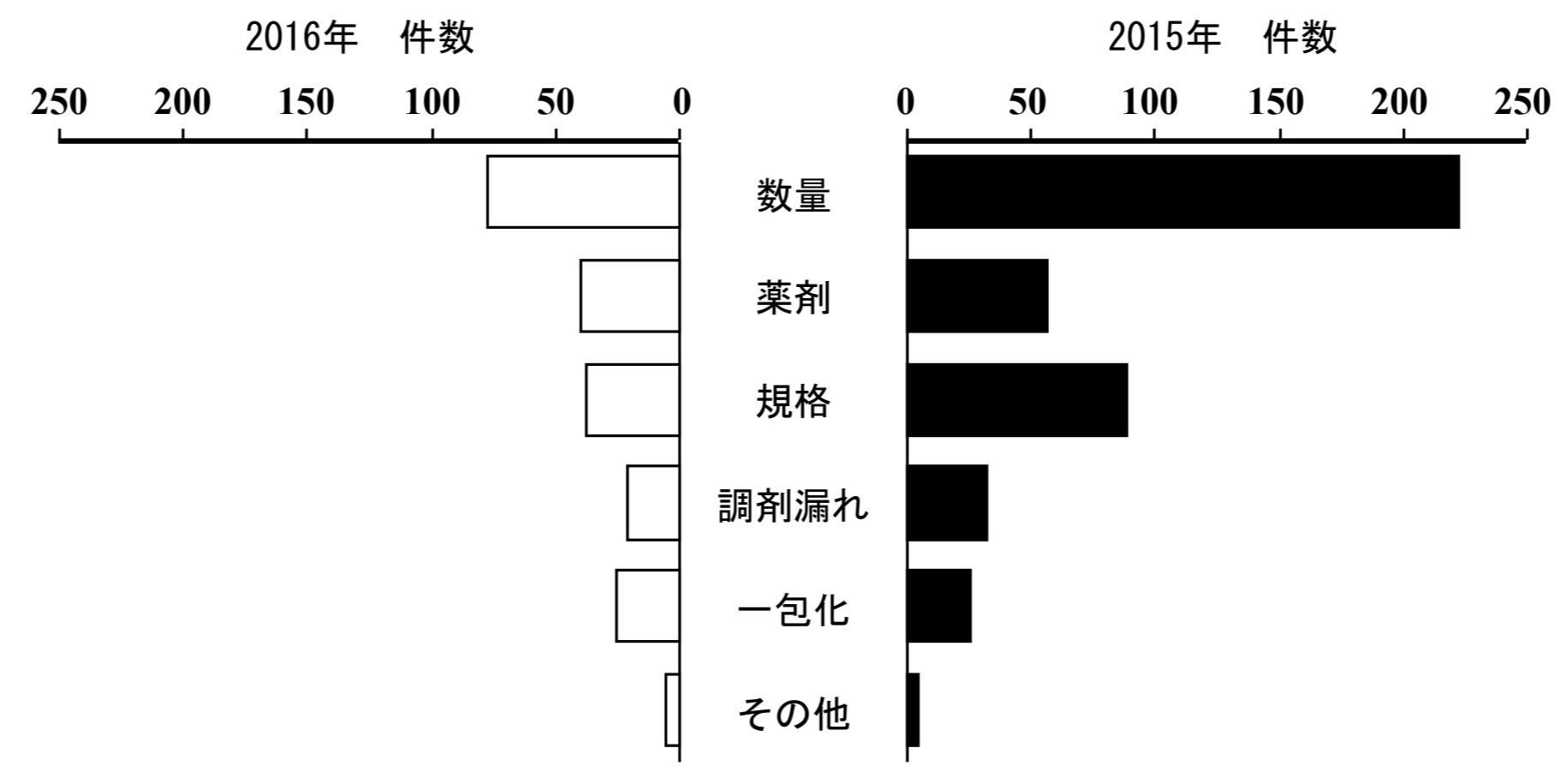
<大分類>



<処方入力時>



<調剤時>



ヒヤリハット発生件数の比較

	2016年	2015年
A：処方入力時	207	243
B：調剤時	203	426
C：最終監査時	26	43
D：服薬指導時	1	0
E：その他	14	29
合計	451	545

< ヒヤリハット調査票の提案 >

ヒヤリハット調査票

平成 年 月 日 曜日 時間

記入者： _____

該当する項目に○を、必要な欄には記入してください。

患者性別： 男 女

薬剤師の性別： 男 女 不明 やや忙しい 忙しい

現在の業務： 調剤 事務 やや遅い かなり遅い

現在の業務： 調剤 事務 やや遅い かなり遅い

ミス等に気付いた時： 調剤時 入力時 監査時 服薬指導時

ミス等の原因： その他 ()

ミスの内容： 数量・日数・用法の誤り 処方箋の誤り 薬剤の誤り 規格の誤り 漏れ・一包化の誤り 調剤・交付の誤り 用法・用量の誤り 保険の誤り 保険の誤り 薬剤師の誤り その他 ()

ミス等の対象となった医薬品 (種類も含む)

正： _____

誤： _____

その他、特記事項 _____

考察

【2016年ヒヤリハット事例の解析について】 今回の解析により、本薬局におけるヒヤリハット事例（451件）の多くが「処方入力時」および「調剤時」に発生していることが明らかとなった。さらに、詳細な集計・解析を行った結果、調剤時における数量に関するヒヤリハットが全ヒヤリハット事例の17.1%（77件）と最も高い値を示した。全国規模で行われた公益財団法人日本医療機能評価機構による「薬局ヒヤリハット事例収集・分析事業 平成27年年報」では、全国で4779件のヒヤリハット事例が報告され、この内、3727件（78.0%）が調剤に関する事例であった。さらに、調剤に関する小分類の結果では数量間違いが全体の22.1%に相当する1054件であったことから、本薬局におけるヒヤリハット事例の発生は比較的低く抑えられていると考えられる。

【ヒヤリハットの発生に関する2016年と2015年の比較について】 ヒヤリハット発生件数について2016年と2015年と比較すると、件数自体は2015年：545件から2016年451件と顕著な減少が認められた。原因として、「調剤時」における数量間違いの減少に起因する「調剤時」に関する発生件数の減少が考えられる。さらに、業務への慣れも関与すると推察される一方、管理帳簿への記載忘れの可能性が懸念される。また、薬剤師個々のヒヤリハット数について年間集計を行った結果、最大140回超から最低0回と幅広く、ヒヤリハットに関する個々の認識が異なる可能性が示唆された。

【調剤過誤について】 最終監査をすり抜け、調剤過誤に至った事例が25件発生したが、幸いにも患者に影響を及ぼす事例はなかった。この多くが薬剤の渡し忘れと規格間違いが原因であった。調剤過誤が発生した原因を検討したが、管理帳簿への記載事項の不明確さや記載事項不足により追跡調査が困難であった。

【正確なヒヤリハット事例の収集を行うための提案】 今回の解析を行う際に最も危惧された点は、情報の正確性であった。上述のように、「管理帳簿への記載忘れ・不明確さ」や「確認の曖昧さ」が否定できず、改善の余地があると考えられる。これらの点を踏まえ、具体的な改善策として全店舗共通の「ヒヤリハット調査票」の採用を考えている。本調査票に必要事項を記入・チェックし、時間経過後も事例の追跡を可能とするものである。本調査票の採用により、より正確で追跡可能なヒヤリハット事例の収集が可能になると期待される。さらに、項目や記載内容については必要に応じて追加・削除を行うことを考えている。

結論

本薬局におけるヒヤリハット事例発生の最大要因は、全国と同様に「調剤時」における「数量間違い」であることが明らかとなった。一方で、問題点として薬剤師個々の認識が異なることにより、全てのヒヤリハット事例が記載されていない可能性が考えられた。改善するために記載事項やデータの収集法について検討の余地があり、改善策の提案を行った。

謝辞

薬局業務の忙しい中、本調査にご協力を頂きました相思樹 ハートライフ薬局の皆様、深く感謝申し上げます。

利益相反の開示

今回の発表に関し、開示すべき利益相反はありません。